

リハビリテーション科

『私たちは、全力で患者様と向き合います。』

地域に根差した病院として、皆様方に愛されるよう心の通った医療を目指します。

様々な病気やケガによって、あたりまえの生活を営むことのできなくなった患者さんの思いを胸に、患者さんのこれからの生活の場へ安心して向かっていけるようお手伝いをしていきます。



リハビリテーション科 科長
星野裕

そのためにスタッフ一人一人が最高のリハビリテーションを提供できる環境づくり・体制づくりに努めています。また、皆様の困ったこと・悩んでいることに対して真摯に向き合い、共に解決の糸口を探ります。

ご来院された皆様、ご遠慮なさらずいつでも我々スタッフにお声掛けください。

リハビリテーション科の概要

〔施設基準〕	〔スタッフ〕
脳血管疾患等リハビリテーション料 I	医師 1名
運動器リハビリテーション料 I	理学療法士 21名
呼吸器リハビリテーション料 I	作業療法士 10名
がんリハビリテーション料	言語聴覚士 6名
心臓リハビリテーション料 I	事務・助手 1名

平成29年5月現在

リハビリテーションの紹介

【脳血管疾患リハビリテーション】

脳梗塞・脳出血・くも膜下出血・脳腫瘍等で、手足がマヒしたり、会話がしづらくなった方を対象にリハビリテーションを提供いたします。

当院は急性期病院ですので、発症後間もない方が多く全身状態が変わりやすい時期ですが、今後の生活を再構築していくのにとっても大切な時期です。そのため、患者さんの状態を確認しながら、少しずつ機能回復していけるようお手伝いしていきます。

理学療法では、下肢の運動機能の向上と座ること・立つこと・歩くことといった基本的動作の実現を、作業療法では、上肢の運動機能の向上と身の回りのこと・生活のこと、といった人の生活に関わる全般の再獲得を、言語療法では、食事・飲水等での飲み込みと他者と意思疎通を図るための手段の獲得を目指していきます。

各担当が責任を持って受け持ち、医師・看護師・医療相談員等とチームで連携しながら取り組みます。

脳血管疾患のリハビリテーションは、長期にわたることが往々にしてありますので、次のステージ（回復期・維持期）にスムーズに移行できるよう、協力病院・施設と共に連携していきます。

【運動器リハビリテーション】

上肢（肩・肘・手首・指）に対しては作業療法士が、下肢・体幹（股・膝・足首・腰）に対しては理学療法士が中心に対応いたします。

上肢のリハビリテーションでは、橈骨遠位端骨折や上腕骨近位端骨折などの骨折、手指の腱損傷、変形性疾患など様々な障害に対応いたします。上肢の障害では、身の回りのこと・仕事・趣味活動など生活に関わることが困難となります。患者さんの状態に合わせてどんなことが出来るのかを考え、アドバイスをしていきます。また、必要に応じて装具や三角巾へのアドバイス、スプリント（手関節・手指）や自助具の作成等を行います。

下肢のリハビリテーションでは、大腿骨頸部骨折や腰椎圧迫骨折、変形性膝関節症などによって、起き上がりや歩行など様々な障害に対応いたします。

特に歩行を含めた移動能力は、患者さんの生活を左右する能力ですので、安全に動作が行えるようお手伝いしていきます。また、杖や歩行器・車イスの選定、補装具の調整についてもアドバイスしていきます。

【廃用症候群リハビリテーション】

様々なケガや病気によって安静を強いられると、身体的にも精神的にも機能の低下が起こります。この状態では、元の生活に戻ることが非常に難しくなります。

当院では、できるだけ早期から廃用症候群を予防し、治療終了から時間差のない退院へと一貫して進められるよう努めています。

患者さんの状態に応じた早期離床、生活を踏まえた訓練を医師・看護師と共に連携しながら進めています。

【呼吸器リハビリテーション】

呼吸機能に障害をお持ちの方々は、生活上の何気ない動作であっても、息苦しさやつらさを訴えます。慢性閉塞性呼吸器疾患（COPD）や人工呼吸器を装着された方々に対し、呼吸機能の改善や日常生活での安楽な動作の指導などを行い、早期離床と、より良い生活の獲得を目指します。

【がんリハビリテーション】

当院は、「がんのリハビリテーション研修」修了施設です。研修を修了した担当スタッフが医師・看護師と共に連携し、病気のステージに合わせたプログラムを提供します。患者さんの生活機能向上を目指し、よりよい生活・満足のいく生活（QOL）に向けて取り組んでいきます。

【心臓リハビリテーション】

当院では、医師指導の下、運動プログラムを作成し運動療法を行っております。CPXによる運動処方にも対応し、より安全で効果的な運動を提供しております。また、様々な学会や研修会等に参加し、心疾患をお持ちの患者さんに対して、適切で安心安全、満足度の高いリハビリテーションが行える環境を目指しております。

教育体制

当院ではO J T (On-The-Job Training)を元にしたスタッフ育成に取り組んでいます。

新入職員は、入職後約1ヶ月間の講義を受講します。ここで社会人としての基礎的な知識と態度を身につけます。並行して新人1名に対し、指導者がつき、治療・訓練場面を通して具体的に指導を行い、リハビリテーションに必要な知識・技術の修得を援助します。また、グループディスカッションや症例検討会、徒手技術・介助技術・治療技術練習会などを定期的に開催しています。

また、全スタッフを対象に科内勉強会・研修後の伝達講習会・症例検討会など様々な院内学習を行っており、院外研修に対しても積極的に参加を促し、自己研鑽の機会を設けています。さらに、学術集会（学会）等に対しても、年間数例の発表・報告を行い、外部への発信も積極的に行っています。

心の通った医療の提供には、スタッフ間の連携は欠かせません。お互いが相談し合い、悩みを共有しあえる雰囲気づくりに努め、最良のリハビリを提供できることを目指しています。

連携・カンファレンス

診療科カンファレンス（整形外科・脳神経外科・神経内科等）を定期的に行っております。医師・看護師

・医療相談員等を交えて、患者さんの退院後の生活を見据え、職種間の情報共有と、今後の治療方針について検討しています。

また、病棟カンファレンスでは看護師と共に病棟での生活・リハビリの進行状況・今後の方針等について意見交換をしています。

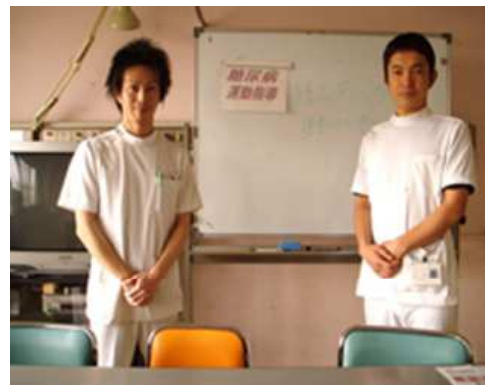
理学療法部門

起きる・座る・立つ・歩くなどの日常生活上の基本となる動作の改善を目指します。

関節の可動範囲の向上・筋力強化・麻痺の回復・痛みの軽減など運動機能に直接働きかける治療法や、動作練習・歩行練習などの能力向上を目指す治療法など、動作改善に必要な技術を用いて、日常生活の自立を目指します。

【糖尿病運動指導】

糖尿病療養指導士の認定を持つスタッフが、糖尿病をお持ちの方々を対象に様々な運動指導を行っております。



作業療法部門

上肢を中心とした運動機能障害、注意や記憶力などの高次脳機能障害、様々な機能障害による日常生活動作障害に対して、治療・援助を行っていきます。

作業療法の範囲は広く多岐に渉ります。大まかには、患者様が抱える生活と人生における困難さ、すべてが対象となります。そのための運動機能訓練や認知機能訓練、身辺動作や家事動作訓練、趣味的活動や復職支援など作業療法として様々なニーズにお応えします。皆様の生活にとってやりたいこと・叶えたいことがありましたら、いつでもお声掛けください。

【スプリント・自助具】

手の外傷や慢性関節リウマチなどによる手の変形、脳卒中後の運動麻痺などをお持ちの方々に、機能改善・患部の保護・変形の予防・身の回り動作の自立などを目的として、オーダーメイドで作製いたします。

最近の市販品にも、非常に優れた商品がありますので、必要に応じでご紹介いたします。



【作業活動】

作業療法といえば、作業活動（手工芸活動）とイメージされる方も多いかと思います。

手工芸活動では作品を作る過程で得られる手指の巧緻性や筋力といった身体的な機能だけでなく、集中力や注意力・判断能力といった認知機能、達成感・満足感といった精神機能など人としての様々な機能を総合的に向上させることができます。



患者様の状態に合わせて、様々な活動を提供します。

言語聴覚療法部門

発症早期からの嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査をふまえ、嚥下能力向上を目指しリハビリ介入していきます。また、コミュニケーションの困難さを改善できるよう、リハビリ介入していきます。